

4月24日 ヨハネによる福音書20章19～31節 今日の説教から
説教題：「やすかれ、わがころよ」

先日、北上の展勝地に行ってきた、満開の桜を見てきました。素晴らしい桜吹雪でした。そこで私が聞いていた曲にヨルシカというアーティストの「春泥棒」という曲がありました。ご存じではない方も多いと思いますので、この要旨の裏面にサビの部分だけ記しています。この度北上の展勝地に赴いて、満開の桜と「桜吹雪」を目にした時、この歌詞が、「息も忘れて瞬きさえ億劫」という歌詞が、自分にとって実感のあるものとなりました。満開の桜に、桜並木に吹き付ける春の嵐が私の前に運んできた桜吹雪は、それを実際に目にして初めて「息を忘れる」ほどに迫力のある素晴らしいものであると実感できたのです。

私たちは日々、讃美歌を歌っています。ただ、どうしても歌いられない讃美歌が選ばれた時は、歌詞と楽譜を目で追いながら歌う「忙しい賛美」になってしまうことがあります。そんな時私たちは、讃美歌の歌詞を味わうことが出来ているのでしょうか。私たちは讃美歌の歌詞を口にしながら、それが「自分の言葉」「自分の体験」「自分の喜び」とであると実感をして賛美することができているのでしょうか。

今日説教後に賛美する「やすかれ、わがころよ」という讃美歌は、54年度版の讃美歌に掲載されている昔ながらの歌詞のままですから、文語調で格調高いと感じることでしょう。ただ、その分言葉の意味をすぐに受け止めることが出来ないようにも思います。ある程度は分かっているつもりでも、特に歌いながらではその歌詞を自分たちのものとして実感することは難しいかもしれません。

ここで歌われている「復活への喜び」「新しい御国への喜び」というものを、今日の聖書箇所最初の時点では、イエス様の弟子たちは実感あるものとして受け止めることが出来ていませんでした。「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をそのわき腹に入れてみなければ、わたしは決して信じない」、と言い切った「疑い深い」トマスだけではなく、他の弟子たちもマグダラのマリアからイエス様の復活を聞いていて、それでも信じる事が出来ずに家にこもっていたのです。

いま、私たちが「見ないのに信じる幸いな人」となることが出来ているのは、そんな初代教会の弟子たちが、その後の業を引き継いだ多くの人々が福音を宣べ伝え続けたからであり、そしてこの江刺教会の信仰を支えた多くの先達が私たちに信仰へと導いてくれたからです。だからこそ私たちは、聖書に記されている神様の愛が、私たちに向けられていることを実感することが出来ているのです。

復活へと導かれている希望を日々抱きながら、福音を宣べ伝える業を担っている喜びに満たされながら、今週一週間の、これからの歩みを共に進めていきましょう。

今日の説教箇所：ヨハネによる福音書 20 章 19～31 節

- 19:その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた。そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。そう言って、手とわき腹とをお見せになった。弟子たちは、主を見て喜んだ。イエスは重ねて言われた。「あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。」そう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。だれの罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る。」十二人の一人でディディモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたとき、彼らと一緒にいなかった。そこで、ほかの弟子たちが、「わたしたちは主を見た」と言うのと、トマスは言った。「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をそのわき腹に入れてみなければ、わたしは決して信じない。」さて八日の後、弟子たちはまた家の中におり、トマスも一緒にいた。戸にはみな鍵がかけてあったのに、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。それから、トマスに言われた。「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。また、あなたの手を伸ばし、わたしのわき腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」トマスは答えて、「わたしの主、わたしの神よ」と言った。イエスはトマスに言われた。「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである。」
- 30:このほかにも、イエスは弟子たちの前で、多くのしるしをなさったが、それはこの書物に書かれていない。これらのことが書かれたのは、あなたがたが、イエスは神の子メシアであると信じるためであり、また、信じてイエスの名により命を受けるためである。

ヨルシカ「春泥棒」サビより

はらり、僕らもう息も忘れて 瞬きさえ億劫
さあ、今日さえ明日過去に変わる ただ風を待つ
だから僕らもう声も忘れて さよならさえ億劫
ただ花が降るだけ 晴れり 今、春吹雪

讚美歌 21 532「やすかれ、わがこころよ」(3番)

やすかれ、わがこころよ、 月日のうつろいなき
み国はやがてきたらん。 うれいは永久に消えて、
かがやくみ顔あおぐ いのちのさちをぞ受けん。